

わかたけ



「イオン環境財団設立30周年記念 植樹30万本プロジェクト」
イオン大野城店より、ヤマザクラの苗木10本寄贈していただきました。
10年後には、満開の桜で花見ができることと思います。

目次

| | | | | | | | |
|------|---------------|---|------|---------------|---|--------|-----------|
| 2ページ | 「新年度を迎えて」理事長 | ／ | 3ページ | 「就任のごあいさつ」本部長 | ／ | 4ページ | 第三次中期経営計画 |
| 5ページ | 令和4年度の主な事業と予算 | ／ | 6ページ | 各施設長のごあいさつ | ／ | 7～8ページ | 実践・委員会報告 |

「新年度を迎えて」

理事長 草本 武俊



～協働して転換期を乗り越える、環境に配慮する、その人らしい生活を支持する～

今年度は、法人設立45周年を迎えます。

また、第三次中期経営計画のスタートの年になります。

そして、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの中での生活と事業の取り組みが、3年目を迎えます。

一方、私たちの生活や社会は、少子化、高齢化、多様な価値観、人材不足、そして環境変化とさまざまな災害の発生などを背景として、多様な価値観を有する社会や時代となり、それに基づく社会福祉ニーズの多様化・複雑化はますます進行するなど、今、社会は大きな転換期を迎えています。

そこで、当法人では、第三次中期経営計画のビジョンとして、法人の理念の「一人ひとりを大切にされた適切なサービスの提供」をもとに「持続可能な環境への配慮とその人らしい生活の支援」の実現をビジョンにして取り組むことにしております。

まず、人材の視点では、一元的・総合的なサービス提供体制に必要な人材の確保と育成を目標に、多様な人材の活用とそのため多様な働き方ができるような環境の整備を行いません。人材育成では、特に管理職育成研修の充実、そして、実践人材の育成のための研修プログラムの開発と研修体系の確立に努めます。業務の視点では、法人内職員の協力体制と生産性の向上、

リスクマネジメントの推進に努めて、利用者サービス向上を図ります。利用者の視点では、入所者の個別支援と自立支援の充実、日中活動と地域生活支援の充実を図ります。そして、財務の視点では、経営基盤の強化と組織的経営の充実を図っていきます。地域の視点では、地域共生社会の実現に向けての連携協働としての地域貢献事業を積極的に実施するようにしております。

今年度としては、まず初めに、法人本部機能の充実として、財務部と事業部の担当及び監理責任を置いて充実を図ることとしました。各拠点の事業運営への助言・指導の強化および横断的な課題については、本部が中心となり、システムの見直しと業務の監理対応を行うなどの取り組みを行います。

そしてまた、各拠点施設及び事業所の取り組みとしては、管理職育成と各施設長が出来るだけ、組織・人材などのマネジメントに専念出来るように本部との連携により、拠点の管理業務の確立を図ることにしました。そして、業務の標準化とサービスの標準化を図り、職員の働き方の改革および利用者サービスの向上を図ることにしました。

今年7月に「宰府園の通所の生活介護と就労支援B型の作業場」と2階には「福祉避難所・研修・余暇などに利用できる多

目的ホール」が完成します。コロナ禍であっても有効な支援の工夫をして、利用者の生活や活動の積極的な取り組みの充実を図っていきます。多目的室では、各拠点施設・事業所の利用者の余暇活動の利用や職員研修の運営の充実を図ってまいります。

そして今年度中に地域生活支援センターの着工を予定しております。

今後、人口減少と社会経済の低迷などの社会現象は加速的に進み、私たちの生活にしても、さまざまな福祉ニーズがより顕在化し、それこそ地域共生社会の実現に向けて積極的に進めて、全員でこの課題解決に向けて取り組んでいく必要があると思っています。

当法人としても、しっかりと先を見据えて、相談支援をはじめ入所生活機能や地域生活支援等の充実を図り、障害のある方々がより自分らしく生活出来るように、一体的総合的サービスの提供ができるように職員全員で取り組んでまいります。

利用者家族の皆様、地域の皆様、そして職員各位のより一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。新年度のご挨拶とさせていただきます。

2022年4月1日

「就任のごあいさつ」

本部長 深町 美代子

★内部管理体制の構築、本部機能の強化、職員業務と利用者サービスの充実★

日頃より当法人の事業運営につきましては、ご理解とご協力を賜り心からお礼申し上げます。また新型コロナウイルス感染症防止のため様々な対応につきまして利用者、ご家族、関係者の皆様のご理解とご協力に対しまして心より感謝申し上げます。

この度、令和4年4月1日付、法人本部長として務めさせていただくことになりました。責任ある大役を担うことに身の引き締まる思いですが、社会福祉法人として課せられる役割を着実に進めていけるよう努めてまいります。

さて、今年度法人の事業計画につきましては、宰府福祉会「第三次中期経営計画」の1年目となります。この中期経営計画で定めた重点実施項目に基づき、その目標の実現に向けて積極的に取り組み事業計画を推進いたします。

社会福祉法が改正され、社会福祉法人は「施設中心の運営」から「組織的な経営」へと変わろうとするなか、ガバナンスの強化や事業運営の透明性の向上、財務規律の強化が改革の柱となります。また、自立した組織としてコンプライアンスやリスク管理、組織業務の適切性を確保する内部管理体制の構築が求められています。

法人本部としましては、本部機能をさらに充実していかなければならないと考えています。

①法人全体の財務状況の把握と分析は言うまでもなく会計基準の遵守、事業運営資金の確保等の財務管理 ②会計監査、業務点検等の内部監査 ③各拠点、法人全体の運営上の課題の解決 ④老朽化した施設設備の保守管理と更新 ⑤人材確保と定着及び育成等については、人材確保に向けた工夫や多種多様な働き方を実現するため、働く環境の整備と職員の公正評価と適材適所の配置等の人事制度の見直しと職員の教育体制の充実、このような法人全体の課題への対応を行ってガバナンスの強化をしなければならないと思っています。

また、当面の課題として、○法人本部機能の充実 ○拠点の管理業務の確立 ○事業統括機能の確立 に取り組む必要があると考えていますが、その中心的な取り組み課題としては「業務とサービスの標準化」と思っています。業務やサービスを標準化することで業務と組織の安定的な運営を行ない効率性と生産性の向上を図り、サービスの質の向上と職員の業務の働く環境、働きやすさに注力してまいります。

どうぞ今後とも、皆様方のご理解とご指導をよろしくお願いいたします。

2022年4月1日

○ 第三次中期経営計画(2022～2026年)

当法人が法人認可を受けて今年度45周年を迎えます。現在、障害者支援施設や障がい福祉サービスやグループホーム、児童発達支援センター及び、県・市の受託事業等の障がい福祉事業に特化した事業運営を、この筑紫圏域で実施しているところです。

このような中、人口減少や少子高齢化、多様化・複雑化する福祉的ニーズへの支援と各種の制度改正、新型コロナウイルスの感染症対策、AIやITCなどの情報生産技術の目覚ましい変化と進歩は、今や社会・経済・生活など、社会環境は大きく変化をしています。また一方、法人施設・事業所においても、人材不足やその働き方、多様なニーズの対応とサービスの質の低下や地域生活支援や家族支援の必要性等さまざまな課題が顕在化しています。

このような状況を踏まえ、第三次中期経営計画を策定しました。第二次中期経営計画は、主に法人の制度改正に対応した取り組みとすみれ園の建物の老朽化に対する建て替えと利用者の重度化・高齢化、地域生活の充実及び新型コロナウイルス等の感染症や災害対策の充実のための施設整備を推進してきました。第三次中期経営計画は、様々な外部環境の変化を踏まえ、利用者サービスの向上及び内部管理体制の充実や総合的な人材の育成など新たな対策や内容を入れて策定し取り組むこととしております。

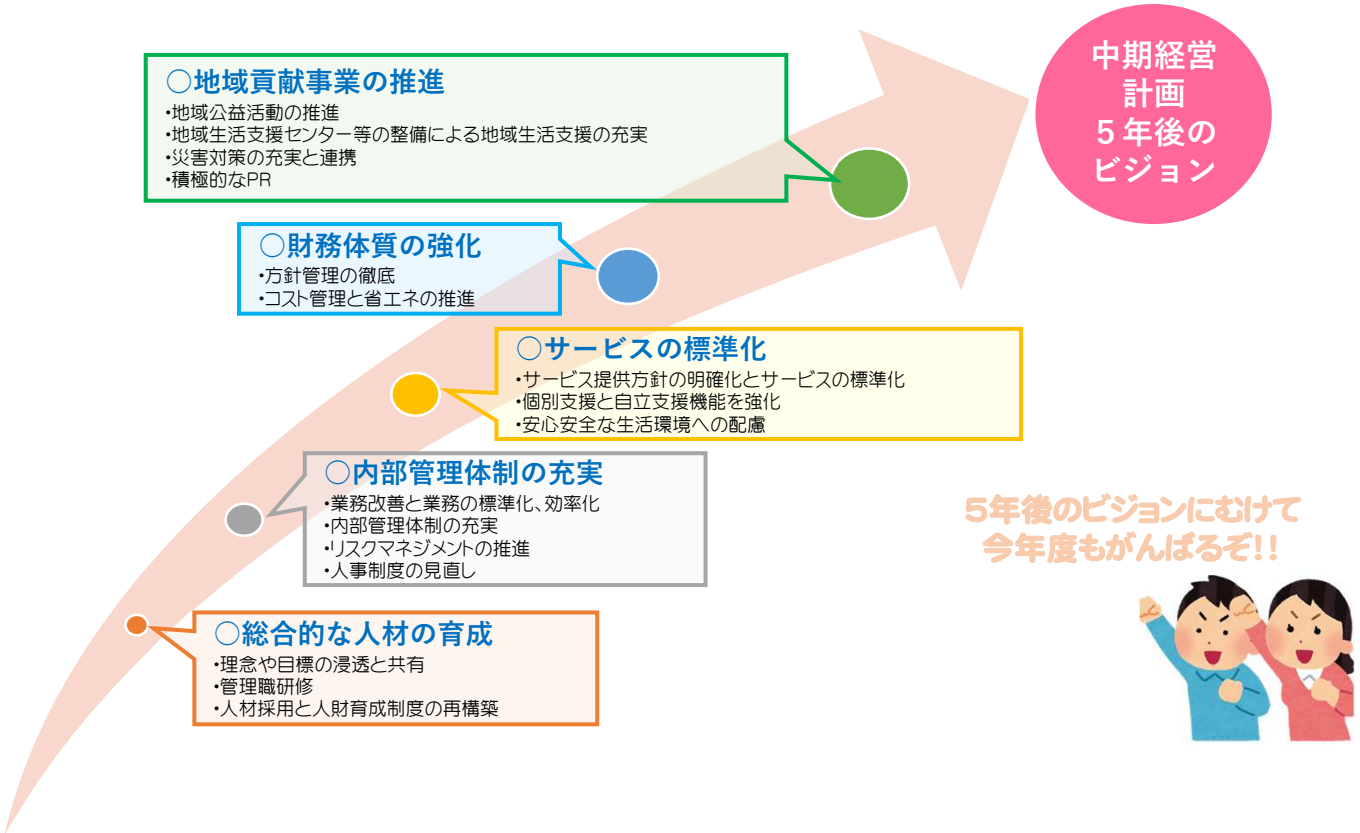
| 5年後の ビジョン | ビジョンの説明 |
|---------------------|--|
| ①共生社会づくりへの連携 | 地域の信頼と協力を得るために、積極的なPRに努め、さらに地域とのつながりを強化するために地域交流等の公益的な取り組みを進めて、共生社会づくりを連携協働した取り組みを行います。 |
| ②子育て支援の実施 | 子育てについての研修等の実施及び園庭や建物を開放して、地域の子どものための交流の場としての遊びの広場等を提供します。 |
| ③災害対策の充実 | 防災に対する意識向上と災害訓練の充実を図るとともに、福祉避難所の機能やBCP等の災害に対するマニュアルの充実を図って実施します。 |
| ④経営基盤の強化 | ガバナンスを強化するために、組織体制を構築して、統治強化します。また、安定経営を行うために収支のバランスや人員配置と体制等の調整を行いながら全職員でコスト管理や省エネ対策に努めます。 |
| ⑤地域生活支援の実施 | 地域生活支援の充実を図るため、地域生活支援センターを整備します。 |
| ⑥個別支援と自立支援の充実 | 個別支援と自立支援の充実を図るために、共生サービスや日中一時事業を実施し、利用者の高齢化や重度化に対応した支援が可能となる機能を整備拡充します。日中活動等の充実を図るため、地域移行・就労移行や創作活動・就労生産活動等の機能を拡充します。 |
| ⑦サービスの標準化 | 提供するサービスについて利用児者の様々なニーズに対応できるサービスの標準化を行い、実施します。 |
| ⑧日中活動等の充実 | 利用者の実態に合わせた就労移行や地域移行等の事業の実施します。 |
| ⑨ライフステージ支援の充実 | 子どもから大人までのライフステージごとの必要なサービスの充実を図ります。 |
| ⑩法人内の協力体制の充実 | 各施設の連携協力体制を強化し、相談からサービス提供までの効率的な業務の仕組み作りとその機能の有効活用ができる支援体制を構築します。 |
| ⑪リスクマネジメントの推進 | リスクマネジメントの理解を深め、利用者や職員の安心安全な確保と環境作りに積極的に取り組みます。 |
| ⑫業務の標準化と生産性の向上 | 常に業務の改善改革を全員で行い、またサービスについての創意工夫から開発まで活発に行われるような風土を作ります。 |
| ⑬多様な人材の活用と多様な働き方の実現 | その人の個性を生かす人材の活用とその人のライフスタイルに応じた働き方の出来る職場環境作りと人事制度を作ります。 |
| ⑭実践人材の育成と研修プログラムの確立 | 多様なサービス提供に対応できる職員の育成と専門性の向上を図るために研修プログラムの工夫を行い効果的に実施します。 |

○ 令和4年度 法人の主な事業と予算

宰府福祉会は、引き続き、国や県の感染防止対策を踏まえて、各施設・事業所が連携し、感染防止の徹底した事業運営に取り組んでいきます。利用者ご家族、地域の方々に対して、コロナ感染防止等に伴う生活環境の変化に配慮した、効果的な自立支援サービスの提供に進めていくことで、社会福祉法人としての社会的な役割を果たしていきたいと考えております。

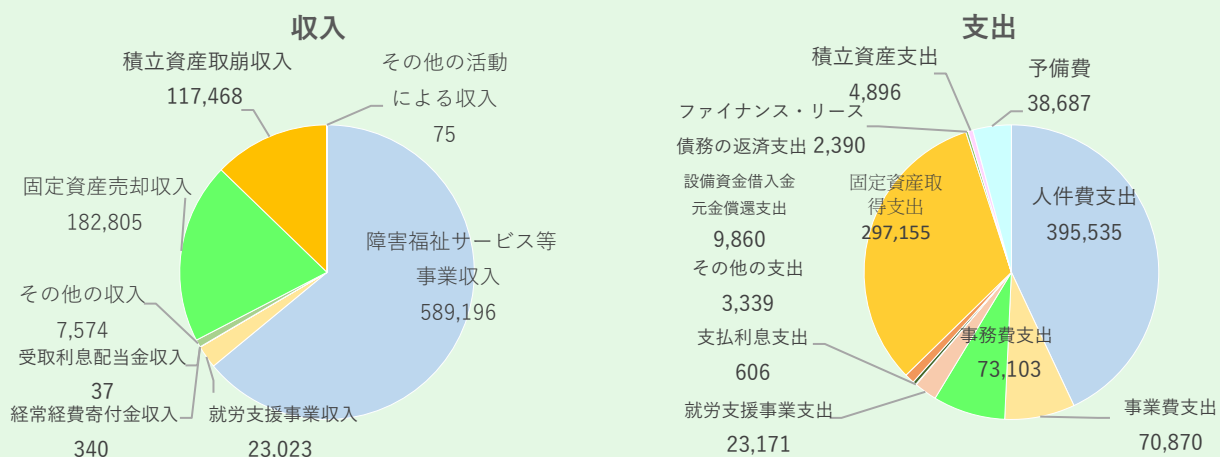
今年度は、「第二次中期経営計画」から新たに「第三次中期経営計画」の取り組みに移ります。利用者のサービス向上のための、入所施設や地域生活支援・拠点機能等の充実と総合的な支援体制づくりのための、人材の育成と確保に引き続き取り組んでいきます。

これらの推進は、当法人の、今後の発展を展望するための取り組みとなります。施設中心のサービス提供から一元的、総合的なサービスの提供への転換です。今後、保育・療育・介護・自立・生活・就労支援・地域支援等の内容充実に向けた検討を進めていきます。



令和4年度 宰府福祉会 当初予算

(単位：千円)



各施設長からごあいさつ

「新年度に向けて」 法人本部事務長 藤原 美智子

持続可能な社会と、安定した事業継続を実現するために、今年度もコストの抑制、省エネの意識をもって業務に邁進したいと思います。また、新型コロナウイルスの影響によりリモートでの研修や会議、面接が当たり前になりました。急速な環境の変化に私達も対応できるように努力してまいります。

これからも事務職員一丸となり本部事業計画の推進と法人経営を支えていきたいと思ひます。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



「新たな挑戦！」 幸府園施設長 大内田 美津子



コロナ感染拡大により生活が一変してから2年が経過しました。コロナ禍での新生活はもはや日常化し、刺激のない退屈な日へと変わってきているように感じています。今年度は、感染対策を継続しながらも「新たな挑戦」の年にしたいと考えています。今夏、新たな活動場所として敷地内に新築の作業棟が完成します。通所・入所の方々への支援の充実を図っていくと同時に、地域の方たちにも楽しんで頂ける企画を考え、提供していきたいと思ひます。今年度もよろしくお願いいたします。

「たくさんの皆様と共に」 やまもも施設長 岡田 美幸

この度やまももの施設長を拝命しました。大きな役割に不安もありますが、たくさんの方々のお力を借りながら、利用者・ご家族、地域の皆様が心身共に健康な毎日をご過ごせるよう、ひとつひとつ丁寧に、精一杯取り組みたいと思ひます。

どうぞよろしくお願いいたします。



「めざせ！チームワーク！！」 すみれ園施設長 矢野 佳子



新型コロナとのお付き合いは続きますが、子どもたち、ご家族、職員と「対話」をしながら、子どもたちの“やってみたい、知りたい、確かめたい” “仲間と一緒に楽しい” “相手をおもいやる” 気持ちを育む生活の中で、子どもたちの成長を一緒に確認していきたいと考えています。ご家族、地域、関係機関の方と共に子どもたちのことを考えていくチームづくりに努めます。どうぞよろしくお願いいたします。

「今年度も一歩前進」 ゆり工房施設長 中村 勝利

令和3年度も利用者、保護者の皆様をはじめ春日市、関係機関の皆様のご支援、ご協力をいただき事業運営を行いました。誠にありがとうございます。取り組みとして、パンのリニューアルセールを行い、大きな反響をいただき、就労事業の活性化に向けた一歩を踏み出しました。今年度もコロナの状況は続きますが、基本的な感染対策を行いながら生産・販売活動を並行して行い、利用者の皆様と喜びを分かち合える1年にしていきたいと思ひます。



「安心・安全の施設づくりを目指して」 にじ施設長 安川 幸正



新型コロナウイルスの感染が高止まりしている中での新年度となりました。今年度の基本方針として①障がい特性に配慮した支援の充実 ②利用者・ご家族への相談の充実 ③サービス管理の充実 ④法人内の業務連携を深め、地域貢献事業の推進やサービスの向上を目指す ことを基本方針とし、個別支援計画を基にコロナ禍でも充実した一日一日が送れるよう、職員一丸となって取り組んで参りますので、宜しくお願い申し上げます。

今年も新しい職員が入職しました！！

4月1日（金）に入職式及び新入職員研修が行われました。今回も新型コロナウイルス感染症対策を考え、オンラインにて入職式及び研修を行いました。



| 氏名 | 所属 |
|-------|------|
| 宮崎 彩 | すみれ園 |
| 広瀬 正吾 | すみれ園 |
| 笠原 舞子 | すみれ園 |
| 三原 恵美 | すみれ園 |
| 菅 美咲 | すみれ園 |
| 神代 健斗 | にじ |

令和4年4月付 採用職員
(正職員・契約職員)



四市共同受託事業

県立太宰府特別支援学校 放課後等支援事業「つくしんぼルーム」



心のよりどころの大切さ

昨年の4月より放課後等支援事業つくしんぼルームの管理責任者となり、早くも一年の月日が経ちました。放課後等支援事業とは4市(太宰府市、筑紫野市、大野城市、春日市)より委託を受け、県立太宰府特別支援学校内で小学1年生から高校3年生までの児童生徒さんをお預かりする日中一時支援事業です。

主に保護者・ご家族へのレスパイト(休息)を目的としながらも、児童が毎日安心して過ごせる居場所の提供に努めて参りました。小学生から高校生の幅広い年齢層や個々のニーズ、それぞれの想いがある中でどうすれば、児童達が楽しく、安心して過ごすことができるのか考え、支援を行ってきました。そんな中で特別支援学校内の一部分という、限られた環境の中で支援を行う難しさや学齢期、思春期の児童との接し方の難しさ、など様々な課題にも直面しました。その度に職員同士で話し合いを行い、つくしんぼルーム職員一丸となって課題に取り組んでいく中で、児童にとって放課後とは何か、学校でも、家でもない居場所、心のよりどころの大切さを知ることが出来ました。

また来たいと思ってもらえる場所を目指す

改めて児童一人ひとりに目を向け、好きなこと、遊びなどの興味関心を知り、その児童の想いに寄り添う中で、その児童の心に触れ、新たな関係性の構築にも繋がりました。今後も子供から大人へ変わる狭間の中で、様々な葛藤を抱え思い悩む児童と心から向き合い、思い悩みながらも共に一歩ずつ成長していきたいと思えます。そして、一人でも多くの児童が心から楽しめる、落ち着ける居場所、なによりも“また来たい”“明日からも学校がんばろう!”とだけ思っているような居場所づくりにこれからも努めて参ります。
(管理責任者 西村 拓哉)

一緒に考えていく相談支援専門員

宰府園の敷地内の一室に「やまもも・すみれ園相談支援センター」があります。

障がい者の方が、地域で「自分らしく、当たり前の日常生活」を送りたいと願う事は当然のことです。しかしながら、生活していく上で様々な困難が生じます。「少しでも生活しやすくするにはどうしたらいいか」「どんなサポートがあれば生活できるのか」「社会とどんなつながりを持ちたいのか」などを一緒に考えていく、そんな相談支援専門員がいるところです。

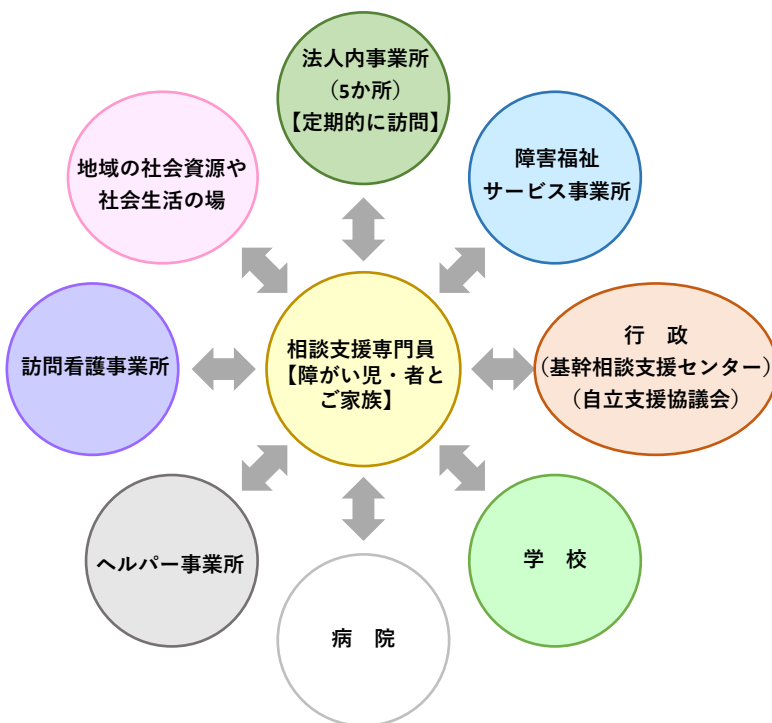
一人ひとりのニーズに合わせて対応

主に筑紫圏域(太宰府市、筑紫野市、大野城市、春日市、那珂川市)にお住まいの方を対象に相談支援事業を行っています。障害福祉サービスを利用するには、各市町村が発行する『受給者証』が必ず必要ですので、その手続きのお手伝いをしたり、それ以外の地域にある社会資源を紹介したり、学校や医療機関とも連携をとったりと、一人ひとりのニーズに合わせて対応しています。【図参照】

当法人のご利用者の方の相談はもちろん、法人外の事業所を利用されている方にとっても、身近な相談場所として根付いていけたらと思っています。また、筑紫圏域の課題としては、福祉サービスもそれ以外の社会資源がなかなか見つからないという点だと感じています。障害がある方も、高齢者の方も子どもさんも近所の方々も一緒に笑って集えてお互いを理解し合い、支え合えるそんな地域になればいいなと願いながら、皆様の声に耳を傾けて過ごしています。

(相談支援専門員 井上 雅代)

やまもも・すみれ園相談支援センター





サービス向上委員会

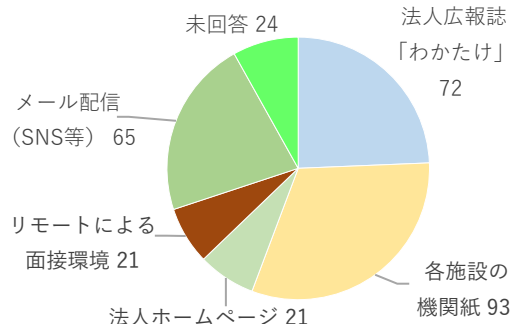
ご利用者(児)・ご家族満足度アンケート実施

今年度、各施設の相談・説明・連絡等のコミュニケーションに関するアンケートを取らせていただきました。

アンケートの結果、多くのご家族の方が、コロナ禍で、職員の業務量が増えていることや工夫しようとしていることへ理解しようと考えていただいていることを感じました。

一方で、私たちの課題が見えてきました。1つは、情報発信の課題についてです。全施設アンケート結果の共通のご意見として、各施設の発行する機関紙についての期待が高いことがうかがえます。また、ご家族に施設内に入っていたく機会が減ったため、施設の中が見えにくい等のご意見もありました。

同時に今回のアンケートでは、職員のアンケート調査も行いました。職員は、現在の対面以外のコミュニケーション方法や日頃のやり取りの中で、ご家族の方の思いを十分にとらえることができていないのではないかと感じている職員が多くいました。



【一部抜粋】コロナ禍での情報発信方法の工夫として必要と考えるものを選んでください。(複数回答可)

この結果を受け、情報発信については、各施設の方針や考え、現在の様子、状況等を伝える具体的な情報手段として活用していくことが必要であると考えます。また、職員は、コミュニケーションが一方通行にならないようにつながっている実感を持つことができる方法を実践していきたいと考えています。アンケート結果を踏まえ、3月12日の法人研修時に、各施設で今後の実践について討議しました。実践につなげていきたいと思えます。アンケートにご協力いただいたご利用者様・ご家族様ありがとうございました。

(サービス向上委員長 矢野 佳子)

虐待防止セルフチェックリストの実施

令和3年度の虐待防止セルフチェックリストでは「職員として利用児者を尊重した福祉サービスの取り組み状況を振り返り、自己研鑽の機会とすること」を目的に、自己振り返りを行いました。その結果を受け、本部事務長及び各施設長からは次のような課題及び令和4年度の取り組みの方向性が示されました。

○本部：直接的な支援ではないが、事務という業務の中で起こりうる不適切について意識を持ち続ける必要があります。今後も人権擁護に関する知識を深め、更なる意識向上に努めます。

○宰府園：職員間のコミュニケーションを大切に、個々の段階に応じた必要な研修や会議、話し合いの場を持ち、全職員でチームとして支援課題に取り組みます。

○やまもも：マニュアルについて必要な改善を図ると同時に、人材育成を進めることにより、利用者の方の特性や状況に合わせた支援を大切にします。

人権擁護委員会

○すみれ園：支援の振り返りに対する意識の向上を今後活かしつつ、職員間の人権への意識の共有やマニュアルに対する取り組みを行います。

○ゆり工房：支援課題の高い事例に対してチームで支援するための検討や、指摘しあえる職場風土と報連相の徹底により「利用者本位」の支援に取り組みます。

○にじ：利用者の立場に立って感じる力と、職員間の活発なコミュニケーションを育て「不適切は絶対に許さない」という意識を持ち、言い合える職場風土を作ります。

令和4年度は、今回のセルフチェックリスト結果を活かし、明らかになった課題に対して各拠点で具体的な取り組みを行うことで、利用児者の皆さまへの支援の質の向上を図り、虐待防止へ繋げてまいりたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(権利擁護委員長 開 裕美)

『編集後記』

3月に子どもの小学校の卒業式がありました。うちの子どもは、新型コロナウイルスの影響のため、卒業式に参加できなかったのですが、学校側のご厚意で後日「一人だけの卒業式」を体育館で卒業式そのままの状態で行ってくれました。

校長先生をはじめ、今までうちの子どもに関わった先生方も多数参加していただき、涙の多い卒業式に参加することが

出来ました。

コロナ禍の中、いろいろな行事やイベント等が中止になったり、参加ができないことが多い中、このようなご厚意をいただいて、すこすうれしく感じました。

(広報委員 羽根田)